

運輸安全委員会ダイジェスト

JTSB (Japan Transport Safety Board) DIGESTS

第29号（平成30（2018）年7月発行）

船舶事故分析集

遊漁船の衝突事故防止に向けて

1. 衝突事故を防ぐために！	1
2. 遊漁船の衝突事故の発生状況／事故調査事例（7事例）	3
3. おわりに	16

1. 衝突事故を防ぐために！

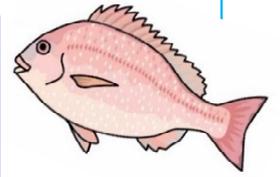
**釣り場への往復、
釣り場での移動などの航行中は、
常時適切な見張りを行いましょう！**

**漂泊又は錨泊中であっても
見張りをを行い、
必要に応じて避航しましょう！**

このダイジェストは、運輸安全委員会がこれまでに公表した船舶事故調査報告書から、遊漁船の衝突事故を防止するため、遊漁船業に係わる方々に知っていただきたいことを取りまとめて紹介しています。

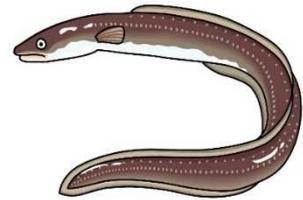
！ 衝突事故防止のポイント

釣り場への往復、釣り場での移動などの航行中は、常時適切な見張りを行いましょう！



- ・ 釣り場への行き帰りや釣り場を変えるときは、船上の構造物や船首浮上による死角を補う見張り等を行い、前路はもちろん周囲もまんべんなく見張りましょう。
- ・ 釣り場には、他の遊漁船はもちろん、釣り目的のプレジャーボートも集まってきます。魚群を探るときや潮上りなどのときは、魚群探知機等の画面ばかりを見ていないで、こまめに周囲を確認しましょう。
- ・ 釣り客の対応をしながらの操船は危険です。航行中は、見張りとお船に集中しましょう。

漂泊又は錨泊中であっても見張りを行い、必要に応じて避航しましょう！



- ・ 漂泊中の船は、航行中の船を避けなくてよいという訳ではありません。その点を意識して、航行中と同じように見張りを行いましょう。
- ・ 接近してくる船がこちらに気付いているとは限りません。漂泊中はもちろん、錨泊中でも“避けてくれるだろう”は禁物です。
- ・ 錨を入れ、竿を出していると、危険を感じてもすぐには動けません。錨泊中は、周囲の状況に気を配り、接近してくる船を見たら、まずは汽笛を吹鳴するなど、早めに行動を起こしましょう！
- ・ “危ないと思ったときは汽笛を鳴らします”
あらかじめ釣り客に伝えておけば、ためらわずに鳴らせるのでは？
- ・ 錨を揚げるのが間に合わないときは、錨を入れた方向に避けることも一つの方法です。